

令和8年度上田農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

【上田地域】

本地域では、土地利用型農業を主体とした認定農業者を中心に、水田を活用した麦・大豆の生産振興を進めている。

一方で、麦・大豆の作付にあたっては、水稻作付地帯との調整や、水系ごとに効率的な作付体系を構築する必要があり、引き続き塩田地域及び上田西部地域を中心にブロックローテーションの取組を推進していくことが課題となっている。

また、一ほ場当たりの収益性向上を図るため、麦の収穫後に大豆やそばを作付する二毛作による水田の高度利用を進めていく必要がある。

さらに、麦・大豆の生産振興及び産地化を進める中で、生産者間で等級や品質が安定しない事例が見受けられることが課題となっている。

このため、農業生産工程管理（GAP）の取組を導入・推進し、高品質な作物生産体制の確立による有利販売を目指す。

【丸子地域】

本地域では、野菜・花き等の高収益作物への転換を進めているが、湿田が多く、水稻以外の作物作付が困難なほ場が多いことから、米の生産調整が進みにくい状況にある。

このため、加工用米等を中心とした生産調整を進めていく必要がある。

また、土地利用型作物以外では、かつて盛んであった長野県花リンドウの生産をはじめ、農産物直売所を中心とした生産量の拡大により、農地の有効活用、遊休農地の解消及び地産地消の推進を図り、地域農業の活性化につなげていく必要がある。

【真田地域】

認定農業者を中心とする担い手が作付する小麦・大豆について、単収が市内平均と比較して低いことが課題となっている。

このため、慣行農法の検証を行い、肥培管理の改善や地域に適した品種の導入を検討することにより、麦・大豆の平均単収の向上を図る必要がある。

野菜・花き等の高収益作物については、農地の荒廃化防止の観点から、兼業農家を含めた多様な担い手を地域農業の担い手として育成・支援していくことが求められる。

また、菅平地区では、認定農業者等が水田を活用したレタス栽培を行い、高冷地及び準高冷地を活用したリレー栽培の導入により、経営の安定化に向けた取組を進めている。

【武石地域】

本地域では、東部地区を中心に水稻生産が行われており、米の需給調整に積極的な地域であることから、そば・大豆等の転作作物が広く生産されている。

近年は、農事組合法人を中心に醸造用玄米の作付が増加しているほか、新規就農者が水稻・野菜・花き農家として就農するなど、担い手の活躍が期待されている。

一方で、農家の高齢化が進行していることから、農業生産意欲を一層高め、引き続き需給調整の達成につながる取組が必要である。

上田市内でも標高の高い武石地域においては、これまでどおり、そば・大豆を中心とした転作を基本としつつ、野菜・花きについては、生産者数が増加しているブロッコリー、アスパラガス、グラジオラスの振興を図っていく。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

きゅうり・トマト・なす・アスパラガス、ブロッコリー等の野菜、スターチス・シヤクヤク・グラジオラス・リンドウ等の花き・花木、りんご・ぶどう・もも等の新植の果樹等の作物に対して助成を行い、水田転作作物としての作付を維持・拡大し、地域の重点品目として販路拡大に努める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田において新規就農又は、水稻から収益性の高い永年性作物に転換を希望する者がいる場合は、地域の状況を踏まえ計画的に畑地化へ誘導していく。

既存のブロックローテーションは基本的に維持しつつ、地域の実情に合わせ範囲の見直しも適宜行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

当年産米の生産数量目安値の達成を目指し、加工用米などの非主食用米への転換を進めながら、需要に応じた主食用米の作付を進める。

また、関係者が一体となって需要に即した計画的な生産をする事を基本に「消費者に選ばれる特徴ある高品質な米作り」を推進する。

(2) 備蓄米

麦・大豆等の畑作物に取組ぶらい、地域では備蓄米に取組んでいく。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米については、従来から利用されている輸入トウモロコシに替わり『安全・安心』な濃厚飼料として管内の畜産農家で利用されている。

また、飼料用米を使用した畜産物のブランド化も図られ、国内で生産される『安全・安心』な飼料用米の需要も高まっていることから、既存の主食用米の生産体制に配慮しつつ、国からの産地交付金を活用し多収性品種の導入を図りながら、飼料用米の生産振興を進める。さらに安定かつ継続した取組が畜産農家、生産農家の双方の所得の安定・向上に結びつくため、複数年契約を進める。

イ 米粉用米

市内の製パン業者・製粉工場などの実需者の掘り起こしにより、生産面積の拡大を検討する。生産にあたっては、既存の主食用米の生産体制に配慮しつつ、国からの産地交付金を活用した多収性専用品種の導入を図る。

ウ 新市場開拓用米

上田市内で生産される主食用米について、新しい市場(需要)を開拓するため、関係機関と連携し新市場開拓用米に取り組む。

エ WCS 用稲

食用コシヒカリの稲わりに比べ、収穫時期が調整でき、労力が分散できるホールクロップサイレージ（以下 WCS という）の定着を進める。

また、牛の発育段階などを考慮し、WCS とほかの飼料を組み合わせることで効率的な利用を目指す。

オ 加工用米

良質な加工用米の生産振興を推進するため、葉緑素計を使用した高度施肥管理等の生産性向上技術の活用を進める。

また、生産される加工用米は、J A 信州うえだ等を通じ実需者（地元酒造メーカーや米

菓製造業者）へ複数年契約で供給し、加工用米の生産振興に取り組む農家の所得安定を目指す。

（４）麦、大豆、飼料作物

○麦・大豆

【上田地域】

麦・大豆のブロックローテーションによる作付体系の維持や、団地化を図りつつ、有利販売に向けた取組としてGAPの導入を進める。

また、大豆作付面積の大半を占めている二毛作への施策誘導を推進する。

【丸子地域】

需要に応じた主食用米の生産に向け、小麦・大豆の適地栽培やGAPの取組を導入することにより収量確保と良質な生産を目指す。

【真田地域】

需要の高い品種を選抜し、生産段階では単収及び等級を向上させる取組を行い産地として定着させて行く。

併せて、担い手へ農地を集積させ作業の効率化を図る。

【武石地域】

GAPの取組の導入を図りながら、良質な産地として面積、収量の拡大を目指す。

○飼料作物

畜産農家の経営安定を図るため、水田活用の直接支払交付金を活用しながら、計画的な自給飼料の生産体制の整備を進める。また、関係団体と連携し、畜産農家の需要調査を行いつつ、地域内の農畜連携の体制も検討する。

（５）そば、なたね

地元産のそばの需要が高いことから、需要量に応じた生産量を確保できるよう生産振興していく。

【上田地域】

そばの生産振興については、団地化を図るなかで有利販売に向けた取組としてGAPを導入し、需要に応える生産体制の整備を進める。また、小麦あとそばの二毛作への施策誘導を推進する。

【丸子地域・真田地域・武石地域】

そばの作付拡大を推進する。また、GAPの取組を導入し、高品質なそば生産を目指す。

（６）地力増進作物

販売等を目的とした作物作付けのための土づくりとして、地力増進作物（稲類、麦類、豆類、花き類の作物）を作付けし、次期作までに土壌へすき込むことで地力増進を図る。

（７）高収益作物

ブロッコリー・アスパラガス・きゅうり等の野菜、スターチス・シャクヤク・グラジオラス等の花き・花木、りんご・ぶどう・もも等の新植の果樹等の作物に対して助成を行い、水田転作作物としての作付を維持・拡大し、販路拡大に努める。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1516.64	0	1581.19	0	1581.19	0
備蓄米	0	0	0	0	0.00	0
飼料用米	1.01	0	1.01	0	1.01	0
米粉用米	0	0	0	0	0.00	0
新市場開拓用米	10.07	0	10.07	0	10.07	0
WCS用稲	4.90	0	4.90	0	4.90	0
加工用米	16.43	0	16.43	0	16.43	0
麦	235.81	0	200.81	0	200.81	0
大豆	252.80	179.72	222.80	149.72	222.80	149.715
飼料作物	8.35	0	8.35	0	8.35	0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0.00	0
そば	84.39	4.16	84.39	4.16	84.39	4.1603
なたね	0	0	0	0	0.00	0
地力増進作物	0	0	0	0	0.00	0
高収益作物	108.24	0	108.24	0	108.24	0
・野菜	90.12	0	90.12	0	90.12	0
・花き・花木	17.45	0	17.45	0	17.45	0
・果樹	0.68	0	0.68	0	0.68	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0.00	0
その他	0	0	0	0	0.00	0
	0	0	0	0	0.00	0
畑地化	0	0	0	0	0.00	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目 標	前年度（実績）	目標値
1	麦、大豆、そば【基幹作】	有利販売に向けた取組への助成（全地域）（麦、大豆、そば）	G A P の作付面積 (ha)	（令和 7 年度）219.39ha	（令和 8 年度）250ha
			1等比率等（%）	（令和 7 年度）麦1等A：98.7%、大豆1等：10.0%、そば1等：79.3%	（令和 8 年度）麦1等A：95.0%、大豆1等：20.0%、そば1等：95.0%
2	小麦（ゆめかおり：パン・中華麵用品種）【基幹作】	小麦（ゆめかおり：パン・中華麵用品種）の生産性向上の取組【基幹作】（真田地域）	平均単収 (kg/10a)	（令和 7 年度）134kg/10a	（令和 8 年度）300kg/10a
			作付面積 (ha)	（令和 7 年度）8.36ha	（令和 8 年度）15.0ha
3	加工用米【基幹作】	加工用米の複数年契約による産地化の取組（全地域）	作付面積 (ha)	（令和 7 年度）3.39ha	（令和 8 年度）15.0ha
4	大豆・そば【二毛作】	二毛作助成（全地域）（大豆・そば）	二毛作の普及率（%）	（令和 7 年度）72.5%	（令和 8 年度）50%
			作付面積 (ha)	（令和 7 年度）159.07ha	（令和 8 年度）205ha
5	野菜、花き・花木、果樹【基幹作】（別添リストによる）	高収益作物への助成（野菜、花き・花木、果樹）（基幹作物）	高収益作物の作付面積 (ha)	（令和 7 年度）52.98ha	（令和 8 年度）65ha
6	野菜、花き【基幹作】（別添リストによる）	担い手の転作作物への加算（真田、武石）	真田、武石地域の担い手の高収益作物作付面積 (ha)	（令和 7 年度）17.79ha	（令和 8 年度）17.5ha
7	そば・なたね【基幹作】	そば・なたね（地域の取組に応じた配分）	作付面積 (ha)	（令和 7 年度）34.03h	（令和 8 年度）40.0h
8	新市場開拓用米【基幹作】	新市場開拓用米（地域の取組に応じた配分）	作付面積 (ha)	（令和 7 年度）10.1ha	（令和 8 年度）10.0ha
9	地力増進作物【基幹作】	地力増進作物の作付（地域の取組に応じた配分）	作付面積 (ha)	（令和 7 年度）0ha	（令和 8 年度）1.5ha
10	新市場開拓用米の複数年契約【基幹作】	新市場開拓用米の複数年契約（地域の取組に応じた配分）	作付面積 (ha)	（令和 7 年度）0ha	（令和 8 年度）6.5ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は 3 年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:長野県

協議会名:上田農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取組要件等 ※4
1	有利販売に向けた取組への助成(全地域)(麦、大豆、そば)	1	10,000	麦、大豆、そば【基幹作】	1 上田農業再生協議会が別紙にて指定するGAPの取組のうち、2つを選んで実施すること。 なお、上田市上田地域においては、計画的土地利用(ブロックローテーション)を進めて行く観点から1に加え、2の要件も同時に満たすこと。 2 2ha以上の集団転作を実施していること。 規模要件の判定にあたっては、以下に該当する水田を除き、団地面積に含めることができるものとする。 ・水稲及び湛水性作物を作付している水田 ・自己保全管理、調整水田等の不作付地 ※同一のほ場で同一年度内に複数回栽培された場合は、そのうち一回を本助成の対象とする。二毛作として作付されたものを除く。 真田地域の麦については、整理番号2の取組にも該当した場合は、本助成の対象外とする。
2	小麦(ゆめかおり:パン・中華麺用品種)の生産性向上の取組(真田地域)	1	18,000	小麦(ゆめかおり:パン・中華麺用品種)【基幹作】	1 排水対策として、うねたて同時播種の導入 2 生育ステージに合わせた施肥(硫酸)の実施 1回目(11月)→8kg 2回目(3月)→15kg 3回目(4月)→10kg 4回目(4月)→10kg 5回目(5月)→15kg *取組年内において、施肥回数は、5回とするが、施肥量は状況に応じて変更する。 3 土壌診断の実施 麦の栽培を抑制する要因として、土壌の酸性化があげられる。このため、土壌改良として、炭酸苦土石灰の施用又は、湛水を行い土壌改良を行う。 併せて、土壌改良の状況を把握するため、抽出で土壌診断(PHの確認)を行う。
3	加工用米の複数年契約による産地化の取組(全地域)	1	14,000	加工用米【基幹作】	実需者と出荷に関する複数年契約(令和6年、令和7年、令和8年の3年間、令和7年、令和8年、令和9年の3年間又は令和8年、令和9年、令和10年の3年間)を結んだ者
4	二毛作助成(全地域)(大豆・そば)	2	13,000	大豆・そば【二毛作】	助成対象者が助成対象水田において、販売目的で作付した大豆・そばの面積のうち、二毛作分に助成する。 なお、そばについては、実需者等との販売契約に基づき作付した面積のうち二毛作分に助成する。 ※二毛作は、経営所得安定対策等に定める戦略作物及び追加配分枠に係るそばとの組み合わせの場合に限る。 ※ 同一のほ場で、同一年度内に複数回作付された場合は、そのうち1回を本助成の対象とする。
5	高収益作物への助成(野菜、花き・花木、果樹)(基幹作物)	1	4,000	野菜、花き・花木、果樹【基幹作】(別添リストによる)	1 同一のほ場で、同一年度内に複数回作付された場合は、そのうち一回を本助成の対象とする。二毛作として作付されたものを除く。 2 出荷目的で新植した永年性果樹については、新植した年度のみを対象とする。また、花木及び多年生の野菜(アスパラガス等)については、新植後、販売に至らない期間についても交付の対象とする。
6	担い手の転作物への加算(真田、武石)	1	4,000	野菜、花き【基幹作】(別添リストによる)	販売目的で野菜・花きを作付していること。 ※同一のほ場で、同一年度内に複数回作付された場合は、そのうち一回を本助成の対象とする。二毛作として作付されたものを除く。
7	そば・なたね(地域の取組に応じた配分)	1	20,000	そば・なたね【基幹作】	経営所得安定対策等実施要綱別紙13の3の(1)の②の「そば・なたねの取組」に基づき、農協等と実需者等との間で締結された販売契約に基づく農協等との出荷契約又は実需者等との販売契約を締結していること。 ※自家加工については、経営所得安定対策等実施要綱様式第9-2号「経営所得安定対策等の交付金に係る自家加工販売(直売所等での販売)計画書兼出荷・販売等実績報告書」を、直売所での販売については、直売所と取引契約を締結又は直売所の名称、所在地、連絡先、対象作物の年間販売予定数量などを記載した計画を作成すること。
8	新市場開拓用米(地域の取組に応じた配分)	1	20,000	新市場開拓用米【基幹作】	経営所得安定対策等実施要綱別紙13の3の(1)の③に基づき、加工用米等取組計画書(需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領別紙1の第5の1)の認定を受けた取組面積に対して助成する。
9	地力増進作物の作付け(地域の取組に応じた配分)	1	20,000	地力増進作物【基幹作】	以下の対象作物を作付けし、①、②を満たすこと 対象作物:地力増進の稲類、麦類、豆類、花き類の作物 ①販売等を目的とした作物作付けのための土づくりとして、地力増進作物を作付けしていること ②次期作までに土壌へすき込むこと
10	新市場開拓用米の複数年契約(地域の取組に応じた配分)	1	10,000	新市場開拓用米の複数年契約【基幹作】	1 需要者側(需要者又は実需者団体)へ出荷・販売を目的として、以下の要件を満たす複数年契約(令和8年度から新たに結んだ3年以上の契約)に基づき、対象作物の生産に取り組む販売農家又は集落営農(複数年契約に係る加工用米等取組計画書(需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領別紙1の第5の1)又は生産製造連携事業計画に位置付けられた者に限る。))による取組であること。 ① 生産者側(生産者又は生産者団体のいずれか)と需要者側(需要者又は需要者団体のいずれか)の契約であること。 ② 販売契約書に各年産米の契約数量及び契約価格(契約価格の設定方法を含む)が明確に記載されており、かつ、契約不履行に対する違約条項があること。 ③ 複数年契約期間中の契約数量が維持又は増加するものであること。 2 需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領に定める新規需要米取組計画又は米穀の新用途への利用の促進に関する法律に定める生産製造連携事業計画の認定を受けていること。

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

産地交付金対応作物 作物名一覧表

上田農業再生協議会

No.	作物種別	作物名
1	野菜	小豆
2	野菜	アスパラガス
3	野菜	イチゴ
4	野菜	インゲン
5	野菜	えだまめ
6	野菜	エンダイブ
7	野菜	エンドウ豆
8	野菜	オクラ
9	野菜	加工用トマト
10	野菜	かぶ
11	野菜	かぼちゃ
12	野菜	カリフラワー
13	野菜	かんしょ
14	野菜	菊芋
15	野菜	キャベツ
16	野菜	きゅうり
17	野菜	金糸瓜
18	野菜	ケール
19	野菜	ゴーヤ
20	野菜	ごぼう
21	野菜	小松菜
22	野菜	ささげ
23	野菜	さつまいも
24	野菜	さといも
25	野菜	ししとう
26	野菜	しそ
27	野菜	しまうり
28	野菜	じゃがいも
29	野菜	春菊
30	野菜	しょうが
31	野菜	白ウリ
32	野菜	スイートコーン
33	野菜	スイカ
34	野菜	ズッキーニ
35	野菜	セリ
36	野菜	セルリー
37	野菜	タアサイ
38	野菜	だいこん
39	野菜	たまねぎ
40	野菜	チンゲンサイ
41	野菜	つけ菜類
42	野菜	唐辛子
43	野菜	トウガン
44	野菜	とうのいも
45	野菜	トマト
46	野菜	ながいも
47	野菜	なす
48	野菜	ニラ
49	野菜	にんじん
50	野菜	にんにく
51	野菜	ねぎ
52	野菜	野沢菜
53	野菜	ハーブ
54	野菜	はくさい
55	野菜	パセリ
56	野菜	花豆
57	野菜	ピーマン ※1
58	野菜	冬菜
59	野菜	ブロッコリー
60	野菜	ほうれんそう
61	野菜	ぼたんしょう
62	野菜	ホンウリ
63	野菜	みずな
64	野菜	みょうが
65	野菜	メロン
66	野菜	モロヘイヤ
67	野菜	ヤーコン
68	野菜	やまいも
69	野菜	やまごぼう
70	野菜	山東菜
71	野菜	ゆうがお
72	野菜	ラッキョウ
73	野菜	レタス
74	野菜	れんこん
75	野菜	その他野菜※4

No.	作物種別	作物名
76	花き	アザミ ※2
77	花き	アーティチョーク
78	花き	秋明菊
79	花き	アスター
80	花き	アネモネ
81	花き	アヤメ
82	花き	アリウム
83	花き	アルストロメリア
84	花き	アンゲロニア
85	花き	イブニングスター
86	花き	エキナセア
87	花き	エキノプス
88	花き	エリンジウム
89	花き	オーニソガラム
90	花き	オダマキ
91	花き	おみなえし
92	花き	女郎花
93	花き	カーネーション
94	花き	貝細工
95	花き	カキツバタ
96	花き	かすみ草
97	花き	カララ
98	花き	観賞用唐辛子
99	花き	カンパニュラ
100	花き	キキョウ
101	花き	キク
102	花き	金魚草
103	花き	クジャクソウ
104	花き	グラジオラス
105	花き	クリスマスローズ
106	花き	ケイカ
107	花き	ケイトウ
108	花き	コスモス
109	花き	ササリンドウ
110	花き	サマーチェリー
111	花き	サンダーソニア
112	花き	ジギタリス
113	花き	シクラメン
114	花き	ジャクヤク
115	花き	スイートピー
116	花き	スイセン
117	花き	スカビオサ
118	花き	スターチス
119	花き	ストック
120	花き	スモークグラス
121	花き	セロシ
122	花き	千日紅
123	花き	ソリダコ
124	花き	ソリダスター
125	花き	ダイアンサス
126	花き	ダリア
127	花き	チーゼル
128	花き	チューリップ
129	花き	デルフィニウム
130	花き	トルコギキョウ
131	花き	トレニア
132	花き	ナデシコ
133	花き	菜の花
134	花き	ネメシア
135	花き	はす
136	花き	バラ
137	花き	パンジー
138	花き	日扇
139	花き	ひまわり
140	花き	姫ひまわり
141	花き	ヒメユリ
142	花き	風船とうわた
143	花き	フサスグリ
144	花き	フプレウラム
145	花き	フリージア
146	花き	ベチュニア
147	花き	ベニバナ
148	花き	ベビーコーン
149	花き	ヘリクリサム
150	花き	ヘレニウム
151	花き	弁慶草

No.	作物種別	作物名
152	花き	ほうき草
153	花き	ほおずき
154	花き	ホトトギス
155	花き	マトリカリア
156	花き	マリーゴールド
157	花き	ミシマサイコ
158	花き	メジウム
159	花き	モルセラ
160	花き	矢車草
161	花き	ユリ
162	花き	ラークスパー
163	花き	ラナンキュラス
164	花き	ラベンダー
165	花き	ラン
166	花き	リアトリス
167	花き	リオン
168	花き	リンドウ
169	花き	ルドベキア
170	花き	ルピナス
171	花き	レースフラワー
172	花き	れんげ
173	花き	ワレモコウ
174	花き	葉牡丹

No.	作物種別	作物名
175	花木	アジサイ
176	花木	イチイ
177	花木	ウメモドキ
178	花木	桜
179	花木	シンフォリカルボス
180	花木	スモークツリー
181	花木	セツカヤナギ
182	花木	ツルウメモドキ
183	花木	南天
184	花木	ビブナム
185	花木	ヒベリカム
186	花木	ボケ
187	花木	紫式部
188	花木	ユーカリ
189	花木	レンギョウ

※1 パブリカを含む

※2 ルリタマアザミを含む

※3 ラズベリー等(ブルーベリーはリスト②にあるため除く)

※4 きのご類及びえごま等

No.	作物種別	作物名
190	果樹	あんず
191	果樹	いちじく
192	果樹	うめ
193	果樹	柿
194	果樹	ホイチゴ
195	果樹	キウイフルーツ
196	果樹	銀杏
197	果樹	くり
198	果樹	クルミ
199	果樹	桑
200	果樹	さくらんぼ
201	果樹	さるなし
202	果樹	すもも ※3
203	果樹	西洋なし
204	果樹	ソルダム
205	果樹	日本すもも
206	果樹	日本なし
207	果樹	びわ
208	果樹	ぶどう
209	果樹	ブルーベリー
210	果樹	ブルーン
211	果樹	ベリー類 ※3
212	果樹	マルメロ
213	果樹	もも
214	果樹	やまぶどう
215	果樹	りんご